

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/04/02

市場のムードの「潮目の変化」に注意

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米国の次の一手を見定める	2 - 3
		予想レンジ: 80.00 ~ 85.50 円	
カナダ/円	➡	米・中景気が最大の焦点に	4 - 5
		予想レンジ: 79.30 ~ 87.00 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	81.14円	84.17円	80.57円	82.87円



①

6日、一部で「ギリシャ政府はギリシャの債務負担軽減のための民間部門関与(PSI)について、参加表明締め切りを8日から14日に延長することを検討中」との噂が広がると、リスク回避ムードが拡大。米国債利回りが低下すると、ドル/円は80.58円まで値を下げた。

②

7日、前日のドル安・円高の流れを引き継ぎ、朝に80.57円の安値をつけたが、その水準では底堅く推移。NY市場で発表された米2月ADP全国雇用者数が21.6万人増と予想(21.5万人増)を僅かに上回ったことで、米国債利回りが上昇すると、ドル/円も上昇した。さらに、国際金融協会(IIF)がギリシャの債務交換について同国債務交換対象総額の58%を保有する投資家が参加表明したことを発表すると、この件に関する市場の不安が和らいでユーロ/円が上昇。これにドル/円は連れ高した。

③

9日、米2月失業率は8.3%と予想と変わらず。しかし、非農業部門雇用者数は22.7万人増と予想(21.0万人)より強い内容となった上、前月分が上方修正(24.3万人増→28.4万人増)された事により、ドル/円は急騰。82円台乗せを達成した。

④

13日、日銀の金融政策発表が通常より大幅に遅れていることを受けて、追加緩和観測から円売りが強まったものの、実際に発表された金融政策は総額2兆円の成長基盤強化支援策で、うち1兆円はドル建ての貸付枠を導入する、という為替の影響については軽微なものに留まる内容だったことから、ドル/円は失速した。しかし、その後の記者会見で白川日銀総裁が緩和姿勢を改めて示したことから円売り優勢に転換。さらに、米2月小売売上高の自動車を除いた数値が前月比+0.9%と市場予想(+0.7%)を上回ったことや、米連邦公開市場委員会(FOMC)が声明にて労働市場の一段の改善や、家庭支出および企業の固定投資が引き続き増加している点、国際金融市場の緊張緩和を指摘したことを受けてドル高が進み、ドル/円は一段高となった。

⑤

15日、ゴト一日の仲値公示に向けたドル買い等により84.17円の高値をつけた。しかしその後、時間外の米長期金利の上昇が一服すると、利益確定のドル売りが強まって失速した。

⑥

22日、本邦2月通関ベース貿易収支は市場予想(1200億円の赤字)に反して329億円の黒字となったことから、ドル/円は83.13円まで下落。その後日経平均がプラスサイドに切り返し、クロス円が反発したことで一旦値を戻したが、独仏の3月製造業・サービス業PMIが予想より弱い結果になると、再び失速。NY市場では82.32円まで値を下げた。

⑦

30日、日本2月消費者物価指数(除生鮮)が前年比+0.1%と予想(-0.1%)に反して上昇していた上、2月失業率も4.5%と予想(4.6%)に反して改善していたことから、円高が進行。ただし、NY市場に入ると米長期金利の上昇を受けて82.88円までドル高・円安が進んだ。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

2012年3月のドル/円相場は80.57円～84.17円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.1%の上昇(ドル高・円安)となった。この月は、前半はギリシャの無秩序なデフォルト(債務不履行)についての不安が後退した上、米経済指標の良好な結果が続き、追加の金融緩和観測が後退した。その一方、日本については日銀の白川総裁が追加緩和について前向きな姿勢を見せたことで日米の金利差が拡大。これにより、ドル/円は上昇し、15日には84.17円の高値をつけた。ただし、その後は次第に米経済指標結果に冴えないものが目立つようになったことに加え、日本についても、市場の予想外に悪くない内容の経済指標が出てくるようになった。これにより、月前半の上げ幅を後半に縮小するような流れとなった。

2月から3月前半にかけて大幅に円安が進んだ際の、過度な「米追加緩和観測の後退」は徐々に和らいでいる。4月は、6月末で終了するツイストオペについて、米連邦準備制度理事会(FRB)の面々が次の1手をどうするべきと見ているのか、慎重に読み取っていく月になるだろう。従って、これまでのようにどんだドルが上値を追っていく展開よりは、2月から3月前半にかけての米国経済の急回復に対する過度な期待が剥落するぶん、ドル売りが強く出やすくなる可能性がある。4月は年度始まりのため、本邦投資家から新規の円売りが出やすい面もあるが、米国側の要因主導で相対的に円買いが強まる可能性があることは留意しておきたい。また、波乱要因としては引き続き欧州の債務問題を意識しておくべきだろう。4月後半から5月にかけてギリシャの総選挙が予定されている他、スペインなども財政に対する不安も強い。これら欧州の要因によってユーロ/円やユーロ/ドルが急激に動けば、ドル/円が乱高下する要因にもなり得る。(ジェルベズ)

(予想レンジ:80.00～85.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

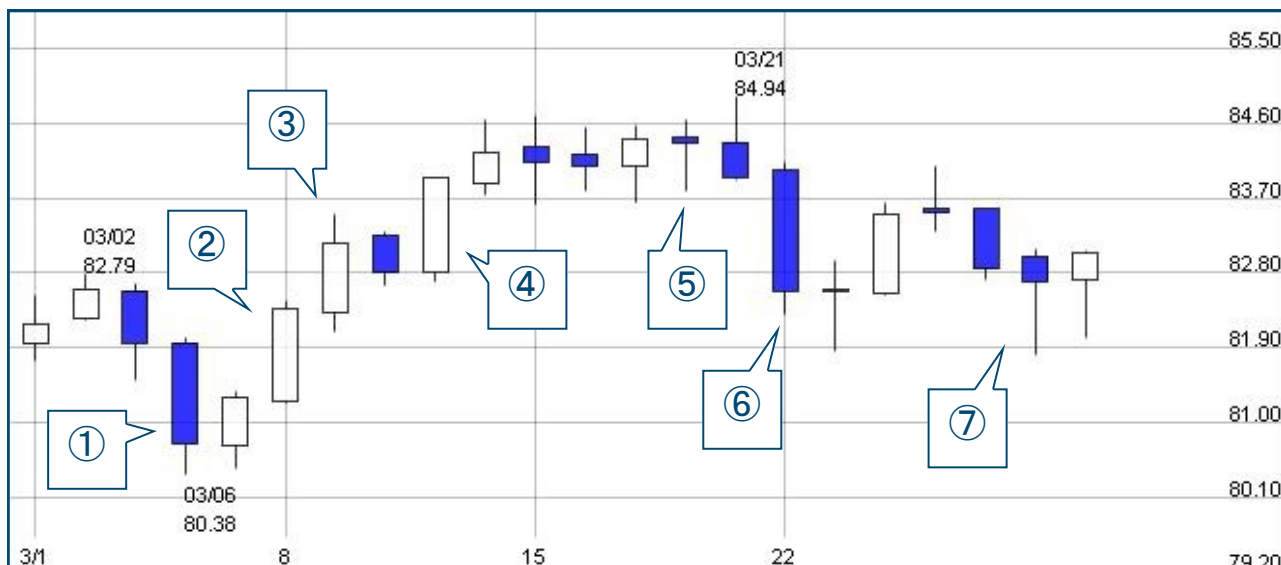
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	2月米ISM製造業景況指数	4/13(金)	3月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
4/3(火)	米FOMC議事録(3月12・13日分)	4/16(月)	3月米小売売上高
4/4(水)	3月米ADP全国雇用者数	4/17(火)	3月米住宅着工件数
	3月米ISM非製造業景況指数		3月米鉱工業生産
4/6(金)	3月米雇用統計	4/19(木)	3月日通関ベース貿易収支
4/9(月)	2月日経常収支		4月米フィラデルフィア連銀景況指数
	3月中国消費者物価指数	4/24(火)	4月米消費者信頼感指数
4/10(火)	日銀金融政策決定会合(09日～)		4月リッチモンド連銀製造業指数
4/11(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)	4/25(水)	3月米耐久財受注
4/12(木)	2月米貿易収支		米FOMC政策金利発表
	3月米生産者物価指数	4/27(金)	日銀金融政策決定会合
4/13(金)	第1四半期中国GDP		第1半期米GDP・速報値
	3月米消費者物価指数	4/30(月)	4月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	81.95円	84.94円	80.38円	83.04円



①	6日、前日に中国政府が、2012年の成長率目標を前年の8.0%から7.5%に引き下げた事や、ギリシャの債務交換プログラムに対する民間債権者の参加申し込みの期限を8日に控え、参加率が低調になるとの憶測が台頭した事を受けてリスク回避の動きが強まると、カナダ/円は80.38円の安値を付けた。
②	8日、本邦1月経常収支が過去最大となる4373億円の赤字、2月上中旬の貿易収支が686.6億円の赤字となった事を受けて円売りが優勢となった。また、カナダ中銀(BOC)が政策金利(1.00%)の据え置きと同時に発表した声明で、インフレや成長率が従来の予想よりも早いペースで上昇するとの見解を示した事もカナダドル買い材料となり、カナダ/円は82.46円まで上値を伸ばした。
③	9日、加2月雇用統計は失業率が7.4%(予想値、前回値ともに7.6%)に改善した一方で、雇用ネット変化は0.28万人減(予想値1.50万人増、前回値0.23万人増)と悪化。マチマチの結果にカナダ/円の反応は限定的となった。しかし、その後発表された米2月雇用統計が予想よりも良好な結果となった事を受けてNY平均株価が上昇して始まると、カナダ/円は83.50円まで上昇した。
④	13日、米連邦公開市場委員会(FOMC)が発表した声明で、労働市場の改善に言及するなど米国景気の現状認識をやや上方修正した事や、米金融大手JPモルガン・チェースがストレステストの合格を明らかにしたうえで自社株買いと増配を発表した事を好感して、NYダウ平均株価が2008年1月以来の水準に上昇すると、カナダ/円は83.95円まで上昇した。
⑤	20日、豪英資源大手BHPビリトンの幹部が中国の鉄鉱石需要の伸び悩みを指摘したと伝わり、中国の景気減速が改めて意識されると、主要国の株価や国際商品価格が軒並み下落。リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は83.78円まで下落した。
⑥	22日、中国のHSBC3月PMI製造業が前月から低下した事を受けて、同国の景気減速懸念が再燃。その後発表された独とユーロ圏の3月PMI製造業も予想を下回り、欧州景気の減速懸念も加わってリスク回避の動きに拍車がかかると、カナダ/円は82.31円まで下落した。
⑦	29日、中国の景気減速懸念を背景に上海総合株価指数が2日続けて大幅下落となった事や、米・英・仏が戦略原油備蓄を放出するとの思惑から原油価格が下落した事を受けてカナダ/円は81.80円まで軟化した。しかし、軟調に推移していたNYダウ平均株価が持ち直してプラス圏に浮上すると82.70円台まで反発した。

CAD/JPY

今月のポイント

3月のカナダ/円相場は80.38円～84.94円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは1.2%の上昇(カナダドル高・円安)となった。中国が5日の全国人民代表大会で今年の成長率目標を引き下げた事や、9日の2月貿易収支で、輸出の伸びが大幅に鈍化した事、さらには、22日の3月HSBC製造業PMIが好・不況の分岐点である50.0を下回った事などを受けて、同国の景気減速懸念が高まり、下旬には上海総合株価指数が大幅に下落した。米国では6日の2月雇用統計が強い結果となり、9日のFOMCでは景気認識が上方修正され、景気回復期待が高まったが、その後は、住宅関連の経済指標を中心に予想ほど改善しないものが目立ち、NYダウ平均株価が伸び悩んだ。今月も、資源国通貨として世界景気の動向に敏感なカナダ/円相場を見通す上で、中国及び米国景気の動向が最大の焦点となりそうだ。

まず、中国では今月1日に発表された3月製造業PMIが予想を上回る結果となり、同国の景気減速懸念はやや後退している。9日の3月消費者物価指数(前年比)の伸び率や13日の第1四半期国内総生産(GDP)の結果が注目されよう。

一方、米国では連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「労働市場は正常からは程遠いまままだ」「雇用市場に大きな進展をもたらすために金融緩和は必要とされる」などとする見解を示した事もあって同国の早期景気回復期待がやや後退しており、6日の3月雇用統計に注目が集まる。

世界景気の両エンジンである中国と米国の景気回復が確認されれば、株高・資源高につながりカナダ/円を押し上げる可能性が高い一方で、両国の景気腰折れ懸念が強まればカナダ/円には下押し圧力となる。(神田)

(予想レンジ:79.30～87.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	日銀短観	4/13(金)	3月米消費者物価指数
	3月米ISM製造業景況指数	4/16(月)	3月米小売売上高
4/3(火)	FOMC議事録(3月12・13日分)	4/17(火)	加中銀政策金利発表
4/4(水)	3月米ADP全国雇用者数		3月米鉱工業生産
	3月米ISM非製造業景況指数	4/18(水)	加中銀マネタリーレポート
4/5(木)	2月加住宅建設許可	4/19(木)	3月日本通関ベース貿易収支
	3月加雇用統計	4/20(金)	3月加消費者物価指数
	3月加Ivey購買部協会指数	4/24(火)	2月加小売売上高
4/6(金)	3月米雇用統計		4月米消費者信頼感指数
4/9(月)	3月中国消費者物価指数	4/25(水)	米FOMC政策金利発表
4/10(火)	日銀金融政策決定会合(9日～)	4/27(金)	日銀金融政策決定会合
4/11(水)	3月加住宅着工件数		第1四半期米GDP・速報値
4/13(金)	第1四半期中国GDP	4/30(月)	2月加GDP

巻頭の特記事項を必ずお読みください。